

第 15 回健康教育研究大会講師紹介

亀岡智美（かめおか さとみ）

兵庫県こころのケアセンター
副センター長兼研究部長
児童青年期精神科医
日本児童青年精神医学会評議員
日本トラウマティックストレス学会理事



<プロフィール>

大阪府立病院を経て、大阪府立中宮病院松心園に勤務。
2001 年より大阪府こころの健康総合センターに勤務。
大阪府の発達障害者支援体制整備検討委員会委員や特別支援教育連携協議会委員などを務め、成人の発達障害者の支援体制の検討にも関わった。
2006 年より、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター客員教授。
2010 年より、大阪大学大学院連合小児発達学研究課招聘教授を併任。
2012 年度より現職。専門は、トラウマ関連障害の臨床。

<著書(分担執筆)>

「子どもの心の診療シリーズ 6 子どもの人格発達の障害」（中山書店、2011）

「心的外傷後ストレス障害（PTSD）」（最新医学社、2011）

「子どもへの性暴力」（誠信書房、2013）

「PTSD 治療ガイドライン第 2 版」（金剛出版、2013）

「子どもの PTSD-診断と治療」（診断と治療社、2014）

「園医・校医・小児科医のための学校保健ガイド」（金原出版株式会社、2015）

学校における子供の心のケア ～サインを見逃さないために～

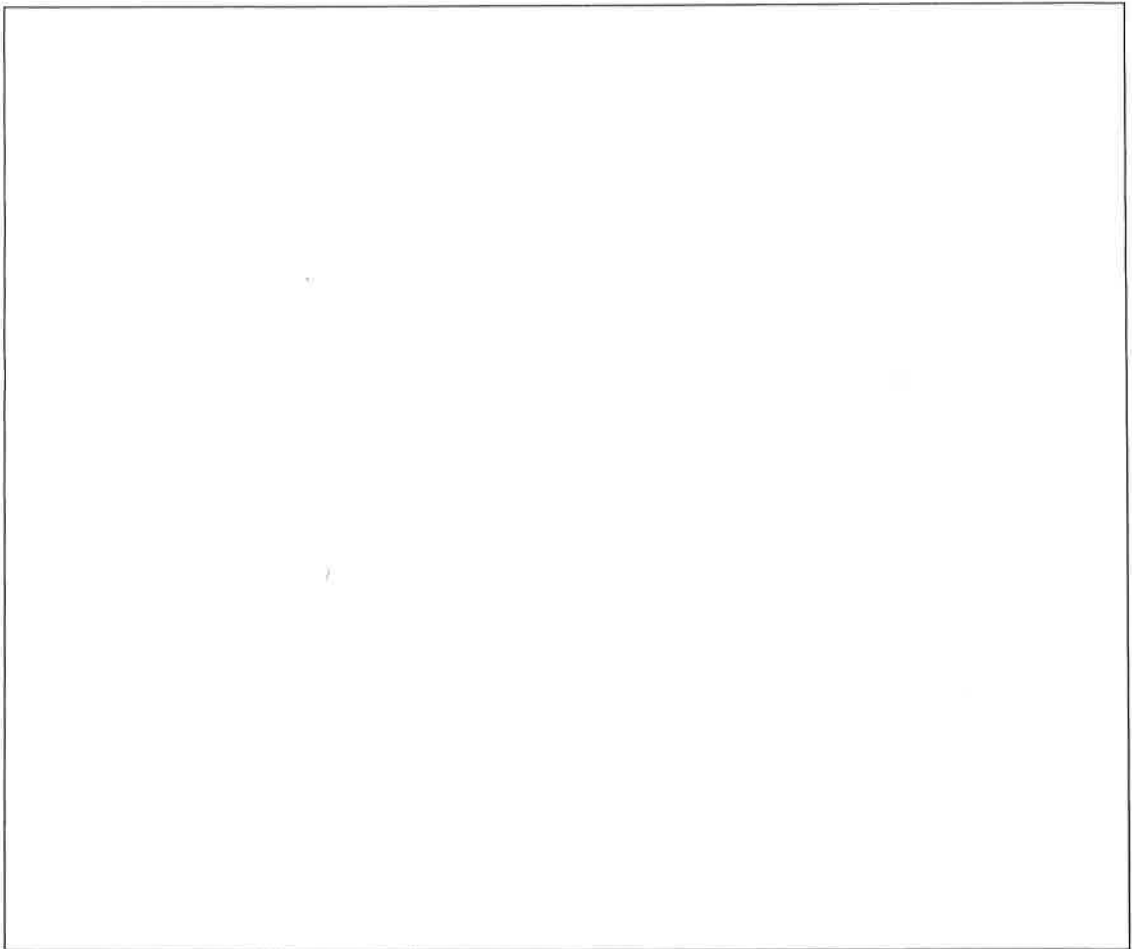
兵庫県こころのケアセンター 亀岡 智美

最近の社会情勢や家族のおかれている状況を考えると、子どもたちのストレスは以前にも増して大きなものとなっていると思われます。それを反映して、教育の場にも、多様な問題が持ち込まれるようになりました。学校は、さまざまな支援ニーズのある子どもや、貧困・子ども虐待などの逆境的環境で生きている子ども、あるいは、いじめに苦しんでいる子どもなど、すべての子どもの教育を受ける権利を保障する場でなければなりません。それだけに、子どもの「こころのケア」、すなわち、子どものメンタルヘルス面への配慮と支援は、学校保健において不可欠な要素であると考えられます。

一般に、子どものメンタルヘルス・サービスのほとんどは、学校現場が担っているといわれています。なぜならば、子どものメンタルヘルス不全の最初の兆候は、学校への不適応として顕在化することが少なくないからです。

研究大会当日は、子どものストレスの中でも自分で対処できないほどの大きなストレスである「トラウマ（心的外傷）」に焦点を当てながら、学校における子どものこころのケアのあり方を考えたいと思います。

<メモ>



沖縄県健康教育研究大会特別講演歴代講師・演題

回	氏 名	所 属 等	演 題
1	宮 里 優	大北ゴルフ練習場ティーチングプロ	『子どもとともに架ける夢』
2	具志堅 幸 司	日本体育大学	『私と体操』
3	根路銘 国 昭	生物資源利用研究所	『科学研究の中で見た個性と人間生物学』
4	小 澤 治 夫	北海道教育大学教授	『最近の子どもの健康・生活・体力の問題と課題』
5	昇 幹 夫	日本笑い学会副会長 ：医師	『元気で長生き PPKのコツ！』
6	清 川 輝 基	NPO子どもとメディア代表理事、 NHK放送局文化研究所研究アドバイザー	『子どもが危ない！』 ～“メディア漬け”が子どもを蝕む～
7	こんのひとみ	絵本作家・シンガーソングライター・ラジオパーソナリティー	『小さな声を受けとめていますか？』 ～歌と語りで織りなすメッセージ～
8	湯 川 れい子	音楽評論家・作詞家	『今、私たちにできること』
9	生 田 香 明	大阪大学名誉教授	『子どもの体は悲鳴をあげている』 心と体の健康危機
10	福 永 哲 夫	鹿屋体育大学長	『自宅でできるホーム貯筋術』
11	成田 真由美	日本テレビ 国際スポーツ東京委員会理事	『自分の可能性を求めて』
12	神 谷 大 介	国立大学法人琉球大学工学部 環境建設工学科助教	『学校・家庭・地域が連携した減災社会の構築に向けて』 ～ 日常における防災力向上を意図して ～
13	舞の海 秀 平	NHK大相撲解説者 スポーツキャスター	『可能性への挑戦』
14	竹 下 和 男	元小・中学校校長 子どもが作る「弁当の日」提唱者	『子どもを台所に立たせよう』
15	亀 岡 智 美	精神科医 兵庫県こころのケアセンター 副センター長兼研究部長	『学校における子供の心のケア』 ～サインを見逃さないために～